

【放射線科】

1. プログラムの目的と特徴

1)目的

研修を通じ、放射線科診療(画像診断および癌の放射線治療)の基本的態度・判断力・技術・知識を習得する。

2)特徴

- ①すべての科の豊富な症例を経験できる。画像診断部門では各科救急を含む多様な疾患の放射線診断と IVR 手技を、治療部門では脳、頭頸部、肺、食道、肝、胆道、膵、直腸、子宮、前立腺、睾丸、など多種類の癌の画像診断、放射線治療、患者管理(初診外来から治療、経過観察、ターミナルまで)を学ぶことが出来る。画像データベース 10 万件、放射線治療患者データベース 6000 件を駆使したティーチングファイルを提示できる。
- ②画像診断では、X 線 CT・MRI・核医学・超音波・血管造影など幅広い技術を習得できる。
- ③放射線治療(年間新患者数 300 例以上)の基礎と効果の実例、癌の患者さんにつき学ぶことができる。
- ④各科との密な連携に基づく院内横断的な、独自のサービスのありかたを学べる。

2. プログラム責任者

松 澤 徹 (第二放射線診断部長)

3. 研修目標

1)行動目標

北見赤十字病院初期臨床研修プログラムの行動目標の達成に努める。

2)経験目標

I)画像診断

下記検査を自ら行い、結果を解釈できる。

- 1. 単純 X 線検査
- 2. X 線 CT 検査
- 3. MRI 検査
- 4. 腹部等の血管造影および血管造影の手法を用いた治療(肝 TAE、緊急止血、)
経皮経肝胆道ドレナージ、各部位 CT/US ガイド下生検、食道、気管、胆道ステント留置の実際を体験
- 5. 超音波検査、US ガイド下生検
- 6. 核医学検査の適応と使い方、読影の基礎

II)放射線治療

下記治療を自ら行い、治療患者の全身管理ができる。

- 1. リニアック(高エネルギーX 線、電子線)を用いた各種悪性腫瘍の治療

2. 高精度3次元治療の CT 治療計画、機能温存治療の実際、治療中の患者マネージメント、腫瘍にともなう緊急事態の診断と治療

Ⅲ) 画像診断・放射線治療

担当医として自ら実施でき、基本的な技術と知識を習得すべきもの。

1. 単純 X 線検査
2. X 線 CT 検査
3. MRI 検査
4. 腹部等の血管造影および血管造影の手法を用いた治療(肝 TAE など)
5. 超音波検査
6. 核医学検査
7. リニアック(高エネルギー X 線、電子線)を用いた各種悪性腫瘍の治療
8. 治療中癌患者の全身管理、腫瘍学的緊急事態の診断とマネージメント

4. 研修実習計画

1) 期間

自由選択期間

2) 研修の実施方法

①画像診断

指導医のもと各種検査の理論・手技・解釈・レポート方法について研修する。

②放射線治療

指導医のもと基本的な診察法を学んだ後、放射線治療の理論・技術を研修する。

放射線腫瘍学の基礎を学ぶ。

③カンファレンス等による研修

病院内の各種カンファレンス、CPC、千葉県および都内の各種カンファレンスや研究会に出席し、研修内容を充実させる。希望があれば、他施設も見学できる。

3) 代表的な週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	フィルム読影	放射線治療	消化管造影	放射線治療	消化管造影
午後	ダイナミック CT・MRI	超音波検査フィルム読影	血管造影フィルム読影	血管造影フィルム読影	ダイナミック CT・MRI

5. 指導体制

指導医 山 崎 彰 (第二放射線治療部長)

指導者 丁 子 清 (第一放射線診断部長)

指導者 松 澤 徹 (第二放射線診断部長)

指導者 松 澤 桂（第三放射線診断部長）

6. 研修の評価

北見赤十字病院初期臨床研修プログラムの規定に準ずる。